

第3回 大村知事と語る会「大学生と語るまちづくりーリニモ沿線地域のにぎわいづくりー」  
意見交換要旨

開催日時:平成23年11月19日(土) 14:00~16:00

開催場所:地球市民交流センター

意見交換者:柴田悠希(愛知淑徳大学 文化創造学部4年)、石川直道(愛知学院大学 総合政策学部3年)、中野健一(愛知県立芸術大学 音楽学部2年)、岸野孝昭(愛知医科大学3年)、阪野李歩(椋山女学園大学 現代マネジメント学部4年)、金澤良和(愛知工業大学 経営情報科学部4年)、村松朝子(愛知県立大学 文学部4年)、稲津雅也(名古屋商科大学 経営学部3年)

柴田悠希(愛知淑徳大学 文化創造学部4年)

- 私は長久手町に住んでおり、万博村の会というボランティア団体に所属して、主にこのモリコロパークでイベントの企画や運営などを行っている。私のモットーは、人と人とのつながりを大切にすることということで、この大学4年間も地域の人や海外の人たち、いろいろな人たちとの交流をしてきた。今日は、そういった経験から皆さんといろいろなお話をしていけたらいいなと思う。
- 今日、私が一番お話ししたいことは、リニモ沿線を活性化させるためには、まず、リニモの運賃を見直すべきではないか、ということ。この理由につきましてはおいおいお話ししていく。次のスライドを。
- 愛知万博が終わり、ここ最近、リニモ沿線上ではユニークなイベントがたくさん行われ、例えば1月には、モリコロパークで全国スイーツマラソンを開催、12月には、リニモを使った、こういった観光ツアーも開催される予定。このようなユニークなイベントを開催して、たくさんの人たちに来ていただくこと頑張っている。そこで、私自身もこんなイベントを考えてみた。この周辺地域には、先ほどもちょっとお話がありましたが、おしゃれなカフェや、いろいろなジャンルの飲食店がたくさんある。そういった食を生かしたイベントを開催してはどうか。
- 具体的には、沿線地域の藤が丘、長久手、瀬戸などの飲食店と協力し、特別価格の

チケットを作成、販売する。そして、そのチケットをお店に提示するとお得に食べ歩きができてしまうというイベント。特典も考えた。それはお店を回ることによってポイントがもらえて、そのポイントがリニモの乗車運賃に還元される。また、愛知県ではエコモビという活動も盛んに行われているが、それらとコラボレーションをして、自転車利用者にはエコマネーのポイントをつけるといったことを考えた。

- ここには問題点がある。これらの魅力的なお店や場所というのは駅から遠くて、ちょっと行きづらいところにあることが多い。リニモを利用したいと思っても、特に学生は高く乗れないという声をたくさん私の周りでも聞いている。つまり、イベントにも行きづらいということ。このようにリニモの運賃が高く、利用しづらいということがイベントの開催や私たちの日常生活、この地域の活性を考えたときに壁になっているのではないかと私は思う。
- それから、こんな疑問もある。先ほど、リニモ導入のときに1,000億円かかったと知事がおっしゃっていたが、そういったことも関連しているとは思いますが、なぜリニモはこのような価格設定になっているのか。そういった部分を一度説明していただきたいと思う。今までも、にぎわいの創出のため、たくさんのいろいろな話し合いが行われ、たくさんアイデアが出されてきたと思うが、一体その意見はどこに吸収されているのかなという疑問が私はちょっとある。もちろん、いろいろと検討されて実行をされてきた事実も先ほどお聞きしたが、ちょっと疑問。
- それから、私が大学時代いろいろな活動をしてきて、アイデアをたくさん持っていて、それを実行に移したいと思っても、縦割りの行政の仕組みというのが壁になっている、そんな声も聞いている。私の意見をまとめると、リニモ沿線を活性化させようとするならば、まず、リニモの運賃を見直すべきだと思う。先ほど浮上体験をさせていただいたが、快適で、日本が誇るべきリニモだと私は思う。だからこそ、もっとたくさんの人に利用していただきたいし、このモリコロパークをはじめ、芸術、文化、さまざまな魅力を持ったこのまちにたくさんの人に遊びに来てほしい、そんな気持ちでいる。なので、今日、知事や学生のみんなといろいろなアイデアを出し合いながら一緒に考えていけたらなとすごく楽しみにしている。

大村知事

- ありがとうございます。耳に痛い話を幾つかいただいたが、運賃の設定は、類似の鉄道とかバスの運賃を参考にしながら決めている。リニモの料金で(リニモ敷設の)借金

を返すのは不可能なので、毎年の運営は何とかやろうということにはなっているが、いろいろとまたご意見をいただいてやっていければというふうに思う。

それでは、続きまして、次、石川直道さん、あだ名は、しゃち？

石川直道(愛知学院大学 総合政策学部3年)

しゃちです。

大村知事

なぜ、そういうニックネームかということも含め、ご意見を5分程度でよろしく願います。

石川直道

- それでは、僕の発表を始めさせていただきたいと思う。僕は、学校で学生を中心とした有志活動をやったり、ゼミでは政治学を専攻していて、政治とメディアについて今いろいろ研究をしている。僕は、今、ゼミの研究内容として、地域特性と投票行動を調べているが、今回は地域特性を調べた研究結果をもとに、長久手について僕なりの分析を説明していきたいと思う。
- まず、先ほど言った地域特性に関してであるが、この地域特性というのはさまざまな客観的データ、例えば年代別人口比とか、人口密度、地価、出生率、耕地面積などの客観的なデータを使い、その地域がどんなところかというのを明らかにすることである。
- 今スライドに映っているグラフは、X軸とY軸で、それぞれの愛知県内の地域を表示している。X軸が右に行くほど活性地域、左に行くほど停滞地域で、Y軸が上に行くほど郊外、下に行くほど都市の傾向が強いという表示をしている。そこで、一番左上を見てもらうとわかるが、長久手町は活性地域に含まれている。活性地域だが、隣に数字が書いてあると思う。その数字は県内の平均を0.0と設定して、その数値が高いほど活性地域、数字が低いほど停滞地域という分析をした。それで、長久手地域が活性で、しかも、刈谷市に次ぐ第2位という順位がなぜかということ僕なりに分析したところ、先ほど説明していただいたとおり、愛知万博の開催とか、来年の1月4日には長久手市になるとのことで、すごい盛り上がりのある地域だということがわかった。
- また、長久手町は郊外開発地域にグループ分けされ、典型的なベッドタウン。特に学生のまちだと僕なりに分析した。これについて、右に書いてあるのは、近郊開発地域の特徴を数字であらわしたものだ。これも先ほどと同様に0.0を基準として、数値が高いほどその傾向が高く、低いほど傾向が低いと言える。それで、近郊開発地域に関してである

が、その特徴として、出生率や若年人口比、婚姻率、就職可能人口比が高いといった結果や老年人口比、死亡率が低いという特徴から、若年層を中心としたベッドタウンであり、特に長久手の特徴としては、近隣に大学や高校が多く集中していることから、学生のまちと言えると分析した。

- それで、長久手町のにぎわいづくりとしては、若年層をターゲットとした施策が不可欠だと僕は考えた。具体的には沿線地域のにぎわいづくり案として、僕は交通機関としての利用よりもリニモ自体を観光資源化するということを考えた。従来の地域の足としての交通機関の利用とはまた違った別の角度から、リニモを知るというコンセプトのもと、地域の枠をつないだ、違ったつながりが生まれるのではないかと考えた。具体的にどうするかというと、駅名を冠した各駅にちなんだ楽曲の制作を僕は提案する。リニモ沿線地域にちなんだ楽曲制作の前例として、神奈川県の江ノ島電鉄、愛称では江ノ電と呼ばれているが、そこに前例がある。皆さんご存じだと思うが、アジアカンフージェネレーションというバンドグループがあるが、それが江ノ電の駅名を冠しているアルバム「サーフブンガクカマクラ」というアルバムを制作している。実際、そのアルバムを今持ってきているが、このアルバムだが、今から回すのでちらっと見てください。僕がアジアカンフージェネレーションが好きだということもあり、このアイデアを思いつくに至った。
- 具体的に「サーフブンガクカマクラ」の曲別の対応表となっている。最初の藤沢駅から始まり、江ノ島や七里ヶ浜とか、最後の鎌倉に至るまで各駅名を冠した。そして、駅名はもちろん、歌詞の内容にも駅名の特徴が出ており、聞いただけでその駅がどんな駅なのかなとちょっと知りたくなるような曲構成となっている。
- それで、地域特性を生かした楽曲制作としては、この学生のまちという特徴を生かし、コンピレーションアルバムの制作を提案する。コンピレーションアルバムとは複数のアーティストの楽曲を特定の方針に基づいて編集したアルバムのことを言う。よく最近ではオムニバスアルバムとかとも呼ばれている。それで、周辺学校に通う学生とか、長久手を中心に活動しているアーティストによるコンピレーションアルバムの制作をしたら、この地域特性を生かした、また一味違ったリニモの利用ができるのではないかと僕は提案する
- そして、楽曲制作に加え、その制作過程などもブログなどで随時経過報告などをして盛り上げていけば、前例の「サーフブンガクカマクラ」のような話題になり、今までとは違った盛り上がり方、地域を超えたにぎわいが起こるのではないかと僕は確信する。

大村知事

ありがとうございました。そうか、江ノ電にはこういう歌があるのか。

石川直道　そうです。また違った角度からリニモを知っていただけると。

大村知事

1つのいいアイデア。ぜひぜひそれをまた具体化をできればというふうに思う。ありがとうございました。それでは、続きまして、3人目、中野健一さんは、愛称、ニックネームはベンというの？

中野健一(愛知県立芸術大学 音楽学部2年)

先ほど急に決まりまして、多分、作曲家のベートーベンのベンだと思う。

大村知事

先ほど決まったのかね。中野さんから5分程度でご意見をいただければと。よろしくどうぞお願いします。

中野健一

- 愛知県立芸術大学で作曲を学んでいる。僕は、スライドショーは用意していないので、今日は僕の顔がスライドショーということでご覧いただきたい。それで、芸術大学という場所で作曲をしている立場から申し上げますと、今ホットな話題として、芸術大学がすごく森の中に、長久手の自然の中にある。建物が、とても古い。それで、学生たちが新しい校舎を建ててくださいということで、この間も学内で署名活動をして知事にも(要望書を)お渡しした。古い建物で音楽をやろうと思うと、ちょっと想像できるでしょうか。まず、ピアノ。ピアノが芸術大学では、すべての部屋に1台ずつ置いてあるわけだが、そのピアノが古くなっていることに加え、練習室全体が古くなっているので、音響的なものや、その他、空調もかなりがらくたみたいな空調になっている。それで、新しい建物を建てたいということで、今県にもお願いしているところ。新しい音楽棟が完成したら、そこにも新しいコンサートホールであるとか、そういうものがつくられるので、そこで演奏会をすれば、地域の方、長久手の方に来てもらえるというふうに考えている。
- 今の状況では、(芸大の)リニモの最寄りの駅が、芸大通駅であり、そこから歩いて、20分ぐらいかかるところに芸術大学があることも原因の1つだが、あまり地域の人を呼んでコンサートをやる機会が少ないので、そのきっかけになるかなというふうに思う。
- それから、芸術、僕の場合は音楽だが、もちろん美術をやっている方もいる。それを地域の方に発信する機会がすごく少ないので、新しい箱ができれば、そのきっかけになると。それだけではなくて、やはり芸術大学の外側に僕たち学生が出ていけないといけないと

ということで、まず、長久手文化の家というコンサートホールがあるが、ここでも演奏会を開いて、地域の方に来てもらうという取り組みを今やっているところ。

- それから、長久手というのは名古屋から見たら郊外にある街なので、名古屋市内であるとか、もうちょっと栄えている場所に出て行ってコンサートをしたり、そういうことも今進めている。内実を言うと、県芸大生は森の中の奥で音楽をやっているということで、ちょっと積極性に欠けるところがあり、あまり外に出て行ってコンサートを計画したりということがない。ほかにも名古屋市内では、名古屋音楽大学とか名古屋芸術大学という音楽学部を持っている大学があるが、それらの大学では案外都会に近いので、大学内でコンサートをやれば人が集まりやすいし、どんどん外へ出て行ってやる。名古屋市内でコンサートをやることも可能だが、ちょっと県立芸大は奥まったところにあるので、その機会に乏しい。おまけにその環境により、県芸大生自身がとても消極的であるので、まず、今日みたいに、他の大学生が今どういうことをやっていて、どういうことに興味があるのかというような交流の場、そういうものをまず、学生主体で設けていかないといけないと思う。話はそれからだろうと思っている。以上です。

#### 大村知事

- ありがとうございます。確かにそうだね。名古屋の街から大分遠いから、県芸大は。だから、もうちょっと地域とか、地元とか、いろいろな方とのつながりとか結びつきがもっとできたらいいなというのは思う。
- ちなみに、音楽棟の建て替えは、今度、予算をつくり、高額な契約は議会の審議にかけなくてはいけないので、今度、議会にかけることになった。私も(今の建物を)見に行ってきたが、遮音も満足にできていないので、なかなか音楽活動というわけにはいかない。着々とやっていく。
- さて、続きまして、それでは、4人目ということで岸野孝昭さん、ニックネームはともやん。全然、名前と関係ないような気もするが、岸野さんは、中央大学の法学部を出た後にまた、内科医を目指して愛知医科大へ入学されたということで、一番のご年長。5分ぐらいでご意見をいただければと。よろしくお願いします。

#### 岸野孝昭

- まず、ともやんについては、前の大学にいた時のサークルの先輩の、しかも酔っぱらった時の思いつきで決まった。知事のご指摘どおり、全く本名とは関係ない。結構、愛されているニックネームなので、先輩には感謝している。

- さっき(県からの説明の中で)リニモのイベントの中で、リニモウオーキングというのがあったが、うちの大学で先日行った学祭で、ちょっとコラボっぽく、リニモウオーキングのチェックポイントを、大学祭の中に設け、そこで大震災へのチャリティーイベントということで東北の物産展をやらせていただいた。うちの大学の買い切りという形で、東北の方から物産を取り寄せたが、リニモウオーキングに参加された方がそれらを積極的に買っていたことで、東北の方には僕たちなりに貢献できたと思う。この場をかりてお礼を言わせていただきたい。
- それで、僕からの提案が2点ほどあるが、来るときに、それらを簡単に超えてしまうような企画を思いついた。今日、SKEさん、どこかにみえましたね。先日、幕張メッセでの握手会のご成功、おめでとうございました。そこで提案だが、簡単なもので、その握手会をこちらでやっていただくというのはどうかと。多分、それで今だったらもっと人が呼べるのではないかと思うが、それは後々事務所の方とでも相談していただいて、ぜひご検討をお願いしたい。
- なぜ、SKEの握手会なら簡単に呼べるのかと思ったが、ファンの方が(遠方の)ここまで来るといふハードルを簡単に超えてしまう魅力がSKEの方にはある。そのハードルと魅力という点で、ハードルは多分先ほど、ぶっきー(柴田さん)が言われた運賃や、距離的な問題があって、それは、なるべく下げる方向で検討していただく。魅力というのは、SKEの魅力に代わるものをこの場で何か挙げれないかと思ったが、SKEと比べて、全く見劣りしてしまうような僕の案だが、折角、これだけ大学生がたくさん集まっているので、大学生が集まる箱を何か用意できないかと。
- 私、前の大学にいた時に、全日本証券研究会という学生団体の方で副委員長をやらせていただいていた。その時、全国のゼミから5、6百人参加していただいて討論大会を開催したが、その折に使用したのが、東京の代々木の明治神宮の裏にあるオリンピックセンター。そのような施設をここモリコロパークにつくってみてはどうかと思った。
- そこ(オリンピックセンター)の料金が1泊1,500円くらい。料金が(学生が利用しやすいように)安い。企画を考える学生は、これだけ沢山いるので、泊まりのイベントなり、何かをやればより多くのお客様を集客できるのではないか、そのような箱をつくってみてはどうかということをご提案させていただいた。

大村知事

ありがとうございました。それでは、5人目ということで阪野李歩さん、ニックネームはキ

キャッシーというのですか。

阪野李歩( 椋山女学園大学 現代マネジメント学部4年 )

はい、キャッシーです。

大村知事 それも含めて、5分程度でご意見をいただければと。よろしくお願いします。

阪野李歩

- キャッシーと呼ばれている理由は、大学1年生の時にフットサルを始め、大学4年生の先輩に、何か一発芸をやれと言われて、その時にディラン・アンド・キャサリンをなだぎ武と友近がやったが、そのキャサリンの物まねをやったら、もうその日からずーとキャッシーと呼ばれた。そこで、あだ名は、キャッシーとなっている。
- 大学の学部には所属している以外では、NAGOYA学生タウン構想推進委員会といい、名古屋市が発足した学生団体だが、名古屋のまちを盛り上げようという理念のもと、大体12, 3大学ぐらいが集まって委員会を設置し、栄でいつも会議と活動をしている。
- 一瞬一秒しかないこの時、いつ死ぬかわからないので思う存分に活動していきたいなという思いと常に明るく笑顔で元気にいたいというのが私。
- 大学のゼミ活動だが、現代マネジメント学部という学部は政治、経済、法律系を4分野学ぶ学部で、私は地域活性を専門にしている。名古屋市の昭和区にある桜山商店街で活性化活動を大学2年生の頃から行っており、学生が1店舗1店舗、審査させていただいたり、イルミネーションを飾らせていただいたり、夏祭りもすべて学生で運営してきた。(スライドで)この夏祭りのところの下に見える、竹をみんなで突ついているように見えるのは、流しそばをやっているところ。模擬店だけではつまらないと思い、会場へ来た人が全員でコミュニケーションをとれる場が欲しいと考え、竹を日進市の方から切って持って来て、学生で流しそばをやった。
- 学生タウンについて、少しだけ紹介させていただきたい。さっき、少し説明したが、名古屋のまちを元気にしようという河村市長の政策の1つとしてやらせていただいている。十何大学が集まって、河村市長と懇話会をさせていただいたり、いろいろなお祭りにブースを出させていただいている。あまり(紹介する)写真がなくて、飲み会の写真しか、ここには出せないが、毎日楽しく活動している。
- そんな私が、さまざまな活動を通して感じたことだが、たくさんの土地とか場所とか行く中でも、リニモの使用回数というのは、人生の中で3回しかなく、1回は愛知万博、2回目は愛知県立大学のオープンキャンパスだった。一番下の写真は、愛知工業大学で



行われた堤幸彦監督の講演会に行ったときのもの。その3回しか、リニモに乗ったことはないが、その時に、なぜ、リニモに乗ったのかなと考え、きっかけがないと乗らないというのがあり、これは多分皆さん一緒ではないのかなと。リニモに乗るきっかけがないと、なかなか難しい。これが現実かなと思った。

- そんな中で、単純に考えて、きっかけづくりをしたらいいのではないかなと思った。例えば、リニモスタンプマップというものを使い、先ほど何回か意見が出たと思うが、リニモに乗ったり、降りたりする時にスタンプを押してもらい、その押してもらったスタンプを近隣のお店で見せると何か特典がつくようにする。これは、ただの仕組みだが、これを大学生がやることに私は意味があるのではないのかなと思う。なぜなら、私は今、大学生が一番熱いと感じているから。大学生の学生数ランキングだと愛知県は確か第2位。京都に続く第2位。なので、その商材を使わないわけにはいかないと。
- 大学生を使って何かやるとするならば、リニモ沿線上の大学で公開授業をやってみたらどうかとも思う。私もそのうちの1人だが、堤監督の講演会も、愛知工業大学でやるからこそリニモに乗っていったのだと。先ほど、(柴田さんや岸本さんから)魅力とハードルの話が出たと思うが、ハードルを超える魅力づくり、それイコール、きっかけなのかなと思っているので、何かできたらいいなと思う。普通に大学の授業がある時にそういうことをやるのではなくて、大学がお休みの時、長期休暇の中で、限定でやるということがいいのかなと思った。
- リニモのことを調べた際、大学が夏休みとか、冬休みとかの間は、かなりリニモの利用者数が減ってしまうという現実を見たので、(イベント等を)長期休暇中にやることに意味があると思った。もしそういうイベントをやるよということが前々からわかっていたら、大学生が定期券をちょっとでも長く持ち続けるということも考え、授業のない長期休暇の間に大体週1ぐらいで有名人とか、著名人とか、いろんな大学の教授、有名な人気のある教授を呼んで来て、何かおもしろい講演会とか、ワークショップとかをやったらおもしろいかなと。
- ただ単に、講演会とかをやるだけではなく、今の大学生は、交流とかつながりというものすごくキーワードにしていると思っており、何か交流会をやりますよというと、交流会があるならちょっとそのイベントに行ってみようかみたいな考えの学生がすごく多い。なので、授業が終わった後に飲み会があるとか、ちょっと出会い目的で来るような子もいるかもしれないが、それは、何か魅力の1つなのかなと私は思うので、そういう交流会を

開催することで今日の授業でこういう意見が出てどうだったとか、新しい知識とか意見とかがまた、そこで新たに生まれるのではないかと考えた。

- それを、週1で開催し、スタンプラリーみたいにはできないか。特典みたいにして、毎回通ったら、何か特典がありますよというふうにしたらどうかなと思って。特典も何か仕組みができたらしら面白いと思って考えたのが、モリコロパークで500人ぐらい集めて、講演会とか、学生による何かイベントができたらしら面白いのではないかとアイデア。そのイベントの中で、何か有名人のライブとかトークショーとかを行ったら、それも集客の1つにつながるのではないかと。例えば、週1で毎日通ってスタンプを集めたら、そのトークショーの無料券とか優先券がもらえますよというふうにしたらもっとおもしろくなるのでは思った。
- 最後に、SNSをもっとフル活用したら面白いのでは。私も活動していく中で、自分でツイッターとか、フェイスブックを使って情報の拡散をしているが、今、ツイッターはすごく日本では熱いと思っていて、情報の一番おいしいところだけを載せて拡散することができる。自分のフォロワーといって、友達同士になった人には必ずその情報を見てもらえることができるし、前もって友達にこの情報を拡散してくださいと言ったら、その友達もツイッターに載せてくれて、いろんな人のタイムライン—いろいろな人のつぶやきが、ぱっと出ることをタイムラインという—toリニモという言葉が載るだけで、何か最近、ツイッターでリニモをよく見かけるとか、リニモという言葉何かたくさん見るというふうに感じると、何となくリニモはすごいのかと思ってもらえる。もっとSNSをフル活用していったらおもしろいのではないのかと思う。
- こんな発言する前に、既にリニモのツイッターがあったら怖いなと思って調べたら、なかったが、リニモボットというツイッターがあって、リニモの多分ファンの人が勝手に立ち上げていると思う。リニモでこういうことがあったとか、リニモでこういうことがあるよだという情報を、誰かが、もう勝手にリニモボットとしてつぶやいてしまっている。興味がある方が既にいらっしゃるということは、多分、リニモで公式的なツイッターをやれば、それなりの反応があるのではないのかなと考えた。私が思いつく案として、大学生が仕掛けるSNSというものを、もっと活用したら何かもっと活性化につながるのではないのかなと考えた。以上です。

大村知事

ありがとうございました。楽しい提案でした。それでは、6人目ですね。金澤良和さん、二

ツクネームはポッター、ハリーポッターかね？

金澤良和(愛知工業大学 経営情報科学部4年)

そうです。

大村知事 それも含めて5分程度でご意見をいただきたいと思います。よろしく。

金澤良和

- 早速ですが、リニモ沿線地域は、愛・地球博記念公園をはじめ、数々の広大な施設の中で行われている催しや私が通う愛知工業大学など多くの大学の学生によって行われている大学祭などのイベントが多く、とても活気づいた土地。そこで、私は、イベント情報に特化した地域SNSの開設を考えた。そもそもSNSとはソーシャル・ネットワーク・サービスの略で、人と人とのつながりを促進、サポートするコミュニティー型の会員制サービス。代表的な例は、日本最大の会員数を持つミクシー、モバイル向けのグリー、モバゲー、世界最大の会員数を持つフェイスブックなどがある。
- SNSが容易に人、情報とのつながりを確立できる点に着目し、SNS内でイベント主催者にイベント情報の告知をしてもらうことで、参加希望者が手軽に情報収集できるサービスを提供できたらと思った。
- この方法による主催者側のメリットとは、宣伝コストの削減、宣伝効果の把握などが上げられる。イベント情報の宣伝で、ビラの配布などをしなくても多くの人に宣伝することが可能になる。また、イベントへの参加意欲が高い人に閲覧していただけることを考えると、ホームページでの宣伝より宣伝効果が高くなる。さらに、閲覧数と参加人数からどれだけの宣伝効果があったのか、宣伝のよかった点、悪かった点を把握することができ、次の宣伝に生かすこともできる。
- 次に、参加者側のメリットとは、さまざまなイベント情報の把握、イベント参加者間での容易な情報交換などが挙げられる。イベント情報の把握については、冒頭に述べたとおりで、さまざまなイベントの情報をまとめて閲覧できるのがこのSNSを開設する目的。また、SNSを利用することで、イベント前に参加者同士でのメッセージのやりとりが容易になる。そうすることで、イベント当日には、既に気心の知れた仲間をつくり出すことができ、イベントを十二分に楽しんでいただけるのではないかと考えられる。そして、フレンド機能を使用し、もし別のイベントへの招待等を行うことがあれば、沿線地域全体のイベントの活性化にもつながるのではと考えられる。以上の点から、イベント情報に特化したSNSを開設することが、リニモ沿線地域の活性化に貢献できるのではないかと考えた。

大村知事 イベント情報を発信するのはありとあらゆる情報をということですかね。

金澤良和 そうです。

大村知事 何か特定の分野ごと、ジャンルごとに分けるとか？そんなことも要らないのかな。とにかくどんどんどん発信するということ？

金澤良和 イベント情報を。

大村知事 はい、わかりました。続きまして、7人目ですね。村松朝子さん、ニックネームはフラン。

村松朝子 はい、フランです。

大村知事 また、5分程度でご意見をよろしくお願いします。

村松朝子

- まず、ニックネームは、これは私が所属している障害児のボランティアサークルでも使っているサークルネーム。きっかけは、最初にサークルに入ると、先輩方が一人ひとりのサークルネームを決めてくれるが、大体好きな食べ物だったり、その時、はまっているものだったりということから、どんどん連想ゲームみたいに言葉を回して行って、最後に決まったものから、例えば、一部分をとって、サークルネームを決めるという形で決めている。私の場合は、好きな飲み物で、水と答えたところからいろいろ先輩の中での連想ゲームが始まっていき、フランという名前に決まった。
- 最初の自己紹介でさせていただいたように、障害児のボランティア活動や、それから、愛知県にある豊根村でのボランティア活動を中心に私は学生生活を送ってきた。その豊根村のことを簡単に紹介させていただくと、茶臼山のふもとにある人口が大体1,400人ぐらいの高齢化率44%を超える、いわゆる限界集落、過疎の地域。小さな村だが、そこで毎年夏に、4泊5日のワークキャンプを行って、小学生たちと交流したり、高齢者の方のお宅に訪問して、いろいろ生活の聞き取り調査を行ったりした。また、冬には、伝統行事である、ちょうど今週末、26、27日に開催されるが、花祭という伝統行事にも毎年参加し、地域の住民の方々と交流を行ってきた。その豊根村には愛知県立大学以外にも名古屋市立大学や金城大学など、ほかの大学生もボランティアなどで入って来ており、いろいろな大学と交流をしてきた。そのような豊根村での活動をしてきたからこそ言えるが、今回のテーマである、リニモの沿線地域は、今の状態のままだともったいないと思った。矛盾するかもしれないが、このリニモの沿線地域というのは、皆さんが挙げられてきたように、すごく魅力的な地域でもある。特に長久手を例に挙げると、名古屋市のすぐ

隣。でも、長久手町全体がベッドタウンというわけでもなく、ただ、田園地帯があるだけのいわゆる田舎という位置でもなく、ちょうどその中間にあるような位置で、周辺の都市との交通の利便性も優れていて、いろいろな博物館などの文化的な施設やこの愛・地球博記念公園というような観光資源、それから、リニモもちろんある。まだまだ豊かな自然もたくさん残っていて、そんなまちは、他にはなくて、すごくおもしろいと個人的に感じている。それに加えて、先ほどの愛知県からの紹介でもあったが、この長久手町や日進を中心とした地域は、子育て世代を中心にまだまだ人口が増加し続けており、長久手は来年の1月には市にもなるという、これからもどんどん発展していくまちというのが私の感じているところ。こうした発展し続けていく街で、さらにリニモや、モリコロパークとか、さまざまな社会資源がたくさんあるのに、その一つ一つが今の段階では点と点で存在しているだけで、例えば、この場のように、大学同士でつながって何かみんなで一緒にやるということもそんなにはない。こういった形で、共同で活動したりしても、そこからあまり発展していくことは少ない。そこが非常にもったいないと感じているところ。先ほどのベン(中野さん)の言っていたような学生主体で何かをやらなくてはいけないというような提案とか、ともやん(岸野さん)の言っていたような学生が集まるような場所の1つとして私が提案したいのは、これらの社会資源を活用して多様な地域活動とか、イベントを常時展開でき、よりにぎわいを生めるようなところを、私もつくりたいなと思っている。福祉や地域社会学を学んできた立場から、まちづくりについて考えると、その地域に住んでいる人が暮らしやすいとか、住み続けたいと思うようなまちづくりが必要で、そのためには、今ある点と点の社会資源をどんどん活用していくべきだと思う。

- 8大学の学生が集まり、全部で10の大学があるこの地域でボランティアとして学生の力をかりて、大学とその大学に通っている学生、それから、長久手や日進などのこの地域の住民と一緒に活動できる、そうした彼らをつなげることができたりする総合的なボランティアセンターというのを、リニモ沿線につくるのはどうかと思って提案したい。実際に大学生でも何かやりたいが、何をしようとか、何ができるかなと思っている大学生は多分たくさんいる。この地域に住んでいる地域住民の人たちも、こういうことがしてほしい、でも、役場に訴えるほどのことでもないかなという思いを持っている人たちというのはいると思う。そこをまず、引き合わせることもだけでも、地域活動やイベントが生まれて、にぎわいづくりに発展していくのではないかなと思う。
- さらに言えば、今、ボランティアやイベントなどを企画している人たちは、それぞれ個人

だったり、団体の個々でやっているところが多く、本当に望まれていることに対応できているのかという疑問を私自身が持っていて、そこで、今あるボランティアも、これからやるようなボランティアも、学生が(主体となって)まとめていけるようなボランティアセンターをつくって、そのボランティアセンターで情報を共有しながら、ボランティアをやりたい学生が登録して住民とのマッチングをしたりして、大学や学生同士、さらには地域住民が交流する拠点にする。それによって、この地域が次第ににぎわっていくのではないかなと思って提案する。

- リニモの乗客数という点から見て、周辺の大学が夏休みに入る8月に、一気に乗降客数が減っている。リニモの沿線にボランティアセンターみたいなものをつくれれば、そういった夏休み中の活動なども可能となり、夏休みの乗客数も確保できるのではないかということを、さっきの(県からの)パワーポイント(の説明)を見ながら考えた。

大村知事

- ありがとうございます。それでは、8人目、稲津雅也さん。まー君というのですね。これはわかりやすいが、稲津さんから5分ほどで意見発表をお願いします。

稲津雅也

- まー君というニックネームについては、べたなまー君ということだが、イメージと合っているとよく言われるので、自分自身もとても気に入っている。本日、プレゼンをする順番を県から決めていただいたが、アイデアが豊富ということで(自分がトリに)選ばれた。私自身、人生を楽しみたいと思っているので、そういう遊びの面から私自身のアイデアを挙げていきたい。
- 昨年、私が、長久手町の地域活性化事業の一環で携わり、今年も本日開催している、アピタ長久手店のスイーツ展についてちょっと(傍聴者の皆さんに)尋ねたい。去年、もしくは今年、スイーツ展に行ったことがある人、または知っていたという人、ちょっと挙手をお願いしたい。ありがとうございます。結構いらっしゃるので嬉しいが、簡単に長久手町について説明すると、先ほども初めに県から説明があったが、学生が4万人ということで、ニューファミリーも増えている。そして、文化や緑があふれている。人があふれているということで、とても元気なまちですごく気に入っている。
- そして、私自身、これまでいろんなイベントに参加してきて、自分がこれからやっていきたいとか、こういうことをしたらいいのではないかというイベント、新しいイベントを4つ考えた。

- まず、1つ目、電飾パレードを開催した。これは今夏、栄の街を、(写真にあるような)きらきらな緑やピンクや赤などの電飾をただ巻きつけて歩くだけのイベントだが、栄のパルコやロフトなどの前を歩きながら、皆さんが知っているなじみの音楽を、アレンジした歌を歌いながら歩くというもの。その歌というのは、ちょっと今から歌います。何でもない日、トゥー・ユー、何でもない日、トゥー・ユー、何でもない日、ディア、あなた、何でもない日、トゥー・ユーとあって、ちょっと恥ずかしいが、こういうことをして、ただ何でもない日を祝おうと、たくさんの人に幸せを与えていくイベントを行った。学生が多い長久手町でこういうことをやったらどんどん盛り上がるのではないかと考えた。それで、先ほどの説明にもあったクリスマstreインもリニモで走るが、その(電飾パレードの)イベントを(長久手町内で)開催し、リニモの上から見たらきれいじゃないかなと思い、提案したい。
- 次に、100人警泥(ケイドロ)というのだが、これも今年の夏、伏見の白川公園でやった。結局15人しか集まらなかったが、でも、自分たちでルールなどを決めて、多分3時間ぐらいやっていたが、緑の上で思い切り走って汗を流してとても気持ちよかったので、モリコロパークで100人以上集めて、大規模にやりたいなと考えている。
- 次に、今日、ここへ来るまでにいろいろなことを考えて決めたが、来年、長久手町が市に変わるということで、第一段のイベントとして、長久手市民祭を開催してはどうかと考えた。長久手にはマンパワー、たくさんの元気な人が多いという事実を、イベントをしていて感じたので、そのマンパワーを使って大学や文化や芸術など、いろいろなものを集めてブースを出したり、大きなイベントをしたいと考えている。
- また、長久手町で、社会見学ツアーというものをしてはどうかと考えている。長久手町にはモリコロパークやリニモ車両基地、トヨタ博物館など、1日いても楽しい場所がたくさんあるので、社会見学ツアーとして考えた。3月11日に起こった、東日本大震災で修学旅行や社会見学に行けなかった学生が多かったと聞いている。名古屋市での取り組みで、こっちに学生を呼んで、こっちのいろんなところを回って社会見学させたという話を聞いたことがあるので、実際に長久手町でやってみたいと考えた。
- さっき言ったが、スイーツフェスティバルということで4枚の写真を挙げた。これは長久手町にあるスイーツ店、カフェなどのケーキを集めて、たくさんの人に来ていただいて、すごく成功だったなとうれしく思っている。本日開催の真っ最中だが、本日で第2回目。これから5年先、10年先と、どんどん続いていけばいいと感じているので提案させていただいた。

- これで発表は終わりだが、本日、ここの集まった大学生のみんなと知事も含めて、僕が提案したイベントをどんどん磨き上げていけるような話し合いをできたらいいなというふうに感じている。よろしくお願いします。

大村知事

- ありがとうございます。一わたりご意見をいただいたら、大体1時間たってしまっていて、皆さんのいただいた意見の中で、そしてまた、言い足りないということ、それから、例えば、他の人が言ったことについて、これはどうなのでしょうという質問とか、いろんなこと、何でも結構ですから、さらにご発言したい方がおられたら、どなたからでも結構ですからどうぞ。柴田さん、どうぞ。

柴田悠希

- 先ほどから、みんな学生が集える場所であったり、地域の人が集える場所をつくるというのではないかと、いろいろな意見が出ているが、実は私の所属している団体で、以前こちらでイベントをした時に同じような意見が出ており、このモリコロパークに、同じ若者同士が情報交換できるような場所をつくるというのではないかと、その時に意見が出された。
- あと、さっきフラン(村松さん)が、ボランティアセンターをつくるというのではと言っていたが、それもモリコロパークにできないかとかちょっと思ったが、皆さん、どうか。

阪野李歩

- 私もいろいろな活動をしていて思ったが、ボランティアセンター云々にしろ、何かたまり場的なものがあればいいのかなって思った。何かたまる場があったら、そこに行けばだれか人がいる、そこに行けばだれかとおしゃべりできて、そこに行けば何かを得られるみたいな、そういう場所づくりというのが必要で、その場所をつくること、イコールそれがきっかけとなって、リニモ沿線地域の活性化にもつながるのではないかと皆さんのお話を聞いていて思った。結局、きっかけとつながりというのが、結構重要なキーワードなのかなと思っている。

大村知事

- この点についてどうか。この点だけでもないが、何でも結構です。

村松朝子 今、ぶっきー(柴田さん)が言ってくれたように、私も最初はボランティアセンターとして考えていたが、別にボランティアだけではなく、それこそ本当に、キャッシー(阪野さん)が言っていたような、学生がボランティアするためだけではなくても、普通に何か別



の大学の学生としゃべりに行くために行く場所というのは、やはりあると楽しいし、大学同士の交流から何か別の他のものが生まれたりもすると思うのですごくいいなと思った。ぶっきー(柴田さん)が言っていたようにモリコロパークにつくれば、ここは駅の目の前なので、絶対にリニモというのは利用してもらえるかなと思った。ロケーションとしてはすごくモリコロパークというのはいいなと思いました。他の方はどうか。

大村知事 いかがですか、ほかの方。

岸野孝昭 そもそもの質問になるが、万博以来、今話していたような(機能を持った)施設は今のところ、ここにはないということなのか？

大村知事 ここですね。地球市民交流センターである、ここと、あちらのドーム型の建物。ここは、皆さん結構、よく(会議とか、懇談会等)こういう形で(利用していただくし)、いろいろなワークショップとかイベントもできる。一応屋根もある。ただ、そういう常設(的な機能)を(もたせて)何とかという、ずっと人がいて(センター的な役割を果たす)ということではない。やはり、ここは公園だから。今のところね。いかがですか。これに関連してでも、関連していなくても。モリコロパークは、普段は、静かな公園で、イベントをやっていないと。そもそもそういうところに学生さんが来るかしらね、平日とか。

阪野李歩 学生が普段、何をしているのかと結構考えることがある。みんなどこに行ったら情報を見られるとか、結局ツイッターしかないのかとか、ピラ配りやっても全然手ごたえがなかったりして、普段みんながどこで何をしているのかということ考えた時に、いろんな学生に聞くと、もう学校と家とバイト先の行き来しかしないという。だから、リニモにもあまり乗らないのかなと。バイトと家と学校プラスアルファで何か行くきっかけというか、行くためのものがないといけない。

大村知事 みんな、普段ぼーっとしているわけじゃないもん。学校へ行って、あとはいろんな活動をやって、サークルをやって、クラブをやって、バイトをやって、またいろんなことをやっているから。まあ、だから、無理やり毎日、どこかに人を集めるというのは難しいと思うが、そういう意味では交流して意見交換することは可能だと。ツイッターとか、フェイスブックとか、ああいう形で情報交換するのが一番効果的なのだろうな、きっと。石川さんはどうですか。何かありますか。

石川直道

そういえば、さっき、(ニックネームの)しゃちの説明をするのを忘れていたので、ちょっといいですか。

大村知事 いいよ。

石川直道

- といっても、あまり内容はないが、地元の名古屋グランパスというサッカーチームがある。あそこから由来して、しゃちという名前なので、石川ではなくて、しゃちと呼んでいただけると。
- いろいろ聞いていて思ったのは、僕も学校でちょっと学生の有志活動みたいな、内向けの新入生歓迎会だったりとか、就職ガイダンスだったりとか、結構、学校の中に向けての企画が多い活動をしている。なので、ちょっと今、皆さんの話を聞いて、ああ、すごい、何かみんな活動しているのだなと思って、ちょっと特別な存在だとか思っていた自分が恥ずかしくなって大分萎縮していた。でも、それこそツイッターだったりとか、SNSを利用している学生は利用しているが、利用していない学生も結構僕の周りにもいて、使ってもミクシーで本当に顔を知っている人だけの利用だったりする人も多い。何か、携帯を開かなくても、それこそ本当に直接会えるような、もっと気軽に会えるような、さっき言っていた、バイトと学校と家と、またもうひとつ、何かつながりがあるところへ行けたらなというのは僕も思った。

中野健一

- ただ、学生のたまり場というか、集まる場所としてという観点からは、長久手である必要があるかなと思う。例えば、長久手に住んでいる方もいるが、名古屋から通っている方もいるし、やはり学生の活動拠点というのが名古屋市あたりに集中しているのかなと思う。あとは大学生が集まるのではなくて、積極的にそれぞれの大学から発信していくという形。お互い学生同士もそうだし、名古屋市民も長久手の大学からこういうものが出ているということがわかるということ自体、結構意味があるのではと思う。

大村知事 そう。確かにここに集まるというか、このリニモの沿線地域で一番人が集まりやすいのは藤が丘だろうな、きっと。

石川直道 そうですね。

大村知事

- 当然だろうね、きっと。そうすると、それでもリニモを意識してもらって少しでもあれ(にぎわいのあるイベント等を開催)すれば、それはそれでいいのかなという気がしますけどね。ただ、あそこ(藤が丘)だと車では行けないな。車で来てということは、こっち(モリコロパーク)の方だと車の人も来られるだろうけど、そういうプラス・マイナスがあるかもし

れないが、いろんな可能性があると思う。他にいかがですか。金澤さん、何かありますか。そんな緊張しなくてもいいですよ。

金澤良和

確かに集まれる場所をここにつくる必要はない。

大村知事

どうぞ、柴田さん。

柴田悠希

何か人が集まる場とか、集える場所とすると難しいかもしれない。例えばここにちょっとしたおしゃれなカフェをつくっちゃうとか、そういうふうになればハードルは低くなるのかと思います。

大村知事 そうですね。

柴田悠希 それに、デートスポットにもなるかもしれないです。

大村知事 さっきのハードルを超える魅力というやつだね、岸野さんが言っていたね。それは確かにそうかもしれないな。いかがですか。

稲津雅也

○ 今の話を聞いていて、まず、場所をつくるというより、集まりをつくる方が大事なのではないかと思って。例えば、藤が丘に集まりやすいのであれば、藤が丘のマックでもミスドでもいいかなと思って、人さえそろえば、別に場所は後でもいいかなと。やはり、集まるきっかけづくりが大事と思う。こうやって集まった中にも縁があるし、そういう意識を持った人が集まるには、フェイスブックを使ったりして一度会ってみて、あっ、いいなと思ったらその集まりに参加すると思う。なので、私自身もイベントをして他大学の学生と知り合っ、他大学の学生と知り合うと、こんないいことがあるのだというふうに学ぶこともあった。今の大学生という言い方はおかしいかもしれないが、大学にこもりがちだと思うので、ちょっとした大きなイベント、注目するようなイベントが、みんなと知り合えるための、注目するようなイベントができればいいのではないかと思う。

大村知事

○ なるほどね。皆さんの意見を、そろそろ総括をいたしますと、場所というよりも集まりをつくっていく。それでもって意見交換をする。そうすると、やはりイベントであるとか、それをまた伝えるためのSNSとか、そういうツールは重要なんでしょうね。携帯とか、スマホとか、パソコンを持ってやっていますでしょう。一番情報を得るのはそれ。もう今

はね。だって、皆さんの世代だともう子供のころから使っている。それこそ小学校へ上がる前ぐらいからやっている。パソコンをやって、当然ゲームだろうけど。だから、そういったのもっと活用してやっていくということが、これからもっとも必要なのかなという感じがする。

- ちなみに、私は、愛知県の県のホームページをもっといろいろ充実させろと(指示して)、この半年ぐらいで大分一新した。ホームページで一番大事なのはトップページにいかに来てもらい、そこからすぐよそに行かないよう、次のいろんなサイトを開いてくれるかどうかにかかっているの、そこをもっとびしっと(した)。最初は字ばかりだったのを絵にしる、写真にしる、どんどんどんどん変えていけと(指示した)。一番いいのは動画だと。動画がトップページにちょっとでもあるといい。そういうこともやりながら、もっとPRができればと思う。イベント情報なんかのSNSも大事だし、ツイッターとかも大事だと思うが、愛知県のホームページのいろいろなところ、そういうサイトをつくってどんどんやっていけたらと。今まさにやっている途中なので、また皆さんからもいろんなアイデアをいただけたらありがたいと思うし、せっかくこうして皆さんが出会った場なので、皆さんの意見を載せるところも、もし可能であればつくってもいいかなと思うので、ぜひまたいろんな意見をいただければと思います。
- 話は尽きませんが、もう予定の時間を超えております。今日の模様は、全部、ユーチューブで流れておりますし、また、これをまとめて県のホームページでも紹介したいというふうに思っているの、ぜひこれからも皆さんから活発なご意見とか、いろんな発信をぜひぜひお願いをしたいと思っています。
- それとあわせて、まだ学生だという人もいるし、もう来年は就職だという人もいると思うので、それぞれ皆さん、学校と、それからまた、その後のいろんな活動を、就職した場合はしっかりとまた(社会で)活躍していただきたいというふうに思っています。じゃ、今日は、以上というふうにさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —